

市町村との意見交換会

日時：平成29年8月3日（木）

午後2時58分～午後4時53分

場所：大阪国際会議場12階 1202会議室

開会 午後2時58分

事務局 予定の時刻より少し早いですけれども、ご出席予定の皆様おそろいでございますので、ただいまから市町村の皆様と関西広域連合との意見交換会を開始させていただきますので、よろしくお願いいたします。

私は本日の司会進行を務めさせていただきます広域連合本部事務局長の中塚です。よろしくお願いいたします。

それでは、初めに井戸連合長よりご挨拶を申し上げたいと存じます。井戸連合長、よろしくお願いいたします。

広域連合長（井戸敏三） 本日は公務ご多用の中、関西の市長会、町村会を代表する皆様方にご出席いただきこのような意見交換の機会をいただきましたことに、まず、心からお礼を申し上げたいと存じます。

関西広域連合でございますが、発足してからもう7年目を迎えております。正確には、6年と8カ月を経過した状況でございます。この意見交換会も発足してから回数を重ね、今回で11回目になります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

関西広域連合でございますが、今年度から第3期の広域計画に基づき、7つの広域事務をはじめとして、国土の双眼構造の実現や政府機関等の移転、国の事務権限の移譲など、分権型社会の実現に向けた取組を重ねてきておりますし、今後もしっかり取り組んでまいります。また、関西全体としての方向性を明確にしていくための企画調整事務につきましても、広域インフラの問題、あるいは広域防災の問題などを含めまして取り組んでまいります。

国との関係では、従前は丸ごと移管、もう少しのところまでいきましたけれども、

今は個々の事務について、国が行うのがいいのか地方が行う方がいいのかという形での事務権限の移譲のシステムですので、なかなか大きな事務が移譲されてくるような仕掛けになっておりません。そのような意味で、我々としてはもっと大括りの事務、例えば都市計画の広域調整の権限といったものをきちんと地方に下ろして欲しい、もし都道府県をまたがるようなものであるとすれば、関西広域連合を使って欲しいというような要請を重ねてきております。これも皆様方と一緒に推進を図らせていただくべき事務だと思っております。

また、国の機関の地方移転につきましては、ご案内のように京都に文化庁が、徳島に消費者庁が、そして和歌山に総務省統計局の統計データ利活用センター（仮称）をつくるという方向で、大きな成果を上げているのはこの関西広域連合管内ですので、さらに円滑な国の地方機関移転後の機能発揮に努力をしてまいりたいと思っております。

また、関西全体として誘致いたしましたワールドマスターズゲームズ2021関西ですが、昨年の秋に競技種目の開催地を決定し、既に各府県の実行委員会が設置されているものでございます。今後、開催地ごとの実行委員会の設置など準備を進めてまいりますので、またご協力をお願い申し上げます。

この4月、ニュージーランドのオークランドで第9回の大会が行われ、我々も開会式に出席して競技視察を行ってまいりました。あわせまして関西の開催にぜひ参加してほしい旨、働きかけをしましたところ、リピーターの方々が多いのがワールドマスターズゲームズ2021関西の特色でもありますが、オークランドに外国から見えているの方々、つまりニュージーランド人以外の方々は「ぜひ関西へ行きたい、行く。だから、早く情報をよこせ」と逆に言われるくらいでしたので、我々もできるだけ早く、骨格情報でもいいから提供できるようなスピード感のある準備を進めていきたいと考えております。

昨年7月の意見交換会で、鳥取県の湯梨浜町長さんから関西大会で初めて開催され

るグラウンドゴルフによる国際化推進を図るべきだというご意見をいただきました。そのご意見の中で、デモンストレーションを現地でやるのが一番のPR方法ではないかというご意見もございましたので、現地で私と平井委員とによる始球式を行いました。私、きちんとホールインワンでした。始球式を行った後、現地の皆さんにグラウンドゴルフの体験をしていただきましたところ、大変好評でした。そのような意味で、関心を持っていただいたということもありますし、湯梨浜町長さん自身が先頭に立って指導されておられました。このようなミッションも考えてみる必要があるかと、今、思っているものです。

今後とも関西全体として取り組んで成功裏に行いたい、特に19年のラグビーのワールドカップ、20年の東京オリンピック・パラリンピック、そして21年のワールドマスターズゲームズ2021関西、ホップ・ステップ・ジャンプではありませんが、我々が自ら参加できるのはこのワールドマスターズゲームズ2021関西ですので、参加するスポーツ、自ら行うスポーツの祭典として盛り上げさせていただければと、願っているものでございます。

また、2025年の国際博覧会の誘致でございますが、私どもとしましても、関西広域連合としましても、また、傘下の各府県市におきましても全面的な協力をし、ムードも盛り上げていきたいと考えているものです。やはり関西が盛り上がりませんと他の地域に盛り上げてくれと言えませんので、今日お集まりの市長会、町村会の皆様方にもご理解いただき、ぜひ、誘致活動にご協力とご支援をお願いしたいと考えているものです。今後とも、関西は一つ一つという多様性を生かしながら、関西は1つとして、一丸となった取組を進めてまいりますので、どうぞ今後とものご指導とご理解をお願いするものでございます。

広域連合の今年度の取組につきましては各担当委員から説明し、忌憚なき積極的なご意見をいただいて相互理解を深めたいと考えております。そのための意見交換会でもありますので、どうぞよろしくご意見申し上げまして冒頭のご挨拶とさせていただきます。

きます。ありがとうございました。

事務局　引き続き説明に入りますが、進め方としましては、今、連合長の挨拶にもございましたように、関西広域連合の取組について順次担当委員からご説明申し上げた後で意見交換へ移りたいと存じます。

各分野担当委員による説明（資料説明）

- ・井戸連合長：広域課題に対応するための企画・調整、広域防災、広域スポーツ振興、資格試験・免許
- ・山田委員：広域観光・文化振興
- ・平井委員：広域観光・文化振興（ジオパーク推進）
- ・濱田副委員：広域産業振興
- ・宮崎知事室長：広域産業振興（農林水産）、広域職員研修
- ・海野副委員：広域医療
- ・三日月委員：広域環境保全

事務局　それでは、ただいまから意見交換に移りたいと存じます。あらかじめ3人の市町長様からご意見を寄せていただいておりますので、まずそのお3人からご意見いただければと存じます。いただいておりますのは、長浜市長さん、美馬市長さん、藍住町長さんですけれども、まず、藤井市長さんお願いします。よろしくをお願いします。

長浜市長（藤井勇治）　ありがとうございます。近畿市長会の副会長で滋賀県長浜市長でございます。よろしくお願いいたします。

私どもからは整備新幹線、北陸新幹線の敦賀延伸に伴う敦賀駅と関西圏、中部圏へのアクセスの向上ということで意見を述べさせていただきます。

北陸新幹線が金沢まで開通したことによりまして、私どもの市でも北陸圏からの交

流人口は増加してきております。今後、敦賀駅まで延伸されることによりまして交流人口のさらなる拡大が期待されます。関西圏と北陸圏、中部圏の人口交流の流れを活性化させていくためには、北陸圏、そして中部圏、関西圏の結節点になります米原駅、この米原との間の鉄道アクセスの向上をしっかりと図る必要があると思います。関西圏と北陸圏、中部圏への鉄道アクセス向上が図られることによって、関西広域連合で形成されている「美の伝説」といった関西広域の観光拠点を結びつける周遊観光ルートなどを活用し、関西圏へのさらなる交流人口の拡大が図られると考えます。つきましては、関西圏から北陸圏、中部圏への鉄道アクセス利便性の拡大のために、米原駅を結節点とする特急電車の中部圏と北陸圏に対する増便、さらに滋賀県北部における在来線の直通延伸及び増便、これらを関西広域連合としてＪＲ東海やらＪＲ西日本に要望を行い、関西広域においてさらなる経済波及効果を生み出していくことを望むと意見させていただきます。

以上でございます。

事務局 ありがとうございます。これに対していかがでしょうか。

和歌山県知事室長（宮崎 泉） 和歌山県で広域インフラを担当させていただいております。関西広域連合では、３月に北陸新幹線の大阪への早期開業や、基本計画に位置づけられている北陸・中京新幹線等の早期実現について、与党北陸新幹線敦賀・大阪間整備検討委員会の西田委員長をはじめとする関係者に要望するとともに、先月は国の予算編成等に対する提案においてフリーゲージトレインの実用化に向けた技術開発や在来線の高度化に向けた国の助成制度の創設についても要望をしてきたところでございます。市長様のご指摘の趣旨も踏まえながら、引き続き新幹線鉄道の整備促進等について国や与党に働きかけていくとともに、北陸新幹線の敦賀以西に伴う関西圏、中部圏のアクセス向上については、鉄道事業者であるＪＲ各社への働きかけを検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

事務局 よろしいですか。

長浜市長（藤井勇治） ありがとうございます。

事務局 それでは次に、美馬市長さんお願いします。

美馬市長（藤田元治） 徳島県市長会の美馬市長の藤田でございます。今日は、このような機会を設けていただきまして誠にありがとうございます。発言をさせていただく前に、少しでも我が町美馬市のご紹介をさせていただきたいと思えます。

美馬市は県都徳島市より西へ約40キロメートルのところに位置しまして、町の中央部を日本三大暴れ川の1つであります吉野川が流れ、南には日本百名山の1つであります霊峰剣山がそびえ、そこを源といたしまして日本一の清流穴吹川、清流といえば皆さんすぐ四万十川や仁淀川を想像されると思いますが、一度来てください、穴吹川を見てください、すぐ日本一だということがわかります。その穴吹川が四季折々の渓谷の美を醸し出しながら吉野川に流れ込みまして、北には阿波藍で栄え、江戸中期から昭和初期の伝統的建造物が建ち並ぶ「うだつの町並み」が、そして西には町の一角に寺院が密集する寺町、そして四国一の規模を誇る横穴式石室の段の塚穴と、自然豊かな、また歴史情緒あふれる町でございますので、井戸連合長をはじめ委員の皆様方におかれましては、ぜひ一度、美馬市へお越しをいただきたいと思います。

さて、本市からの要望、意見といたしましては、東京オリンピック・パラリンピックへ向けての関西伝統文化の発信についてということで、東京オリンピック・パラリンピックのエンブレムに日本の伝統色であるジャパンプルーと言われております藍色の採用がされました。藍づくりは江戸時代から阿波藩で非常に盛んに行われており、美馬市の脇町は徳島産の藍、阿波藍の生産地、また、集散地として栄え、脇町の藍玉は大阪を中心とした関西はもとより西日本各地へ送られておりました。美馬市、脇町には現在でも多くの当時の伝統的建造物が建ち並ぶ「うだつの町並み」として国内外から多くの観光客が訪れ、伝統文化を観光につなげているところです。

また、美馬和傘は、美馬市美馬町におきまして大正時代から昭和20年代の、最盛期

には年間100万本、当時、岐阜県に続く全国第2位の生産がされておりましたが、現在は美馬和傘製作集団が製作技術の保存・伝承に取り組んでおり、本市といたしましても和傘の製作・技術継承者を育成し、生産体制の確立と販路拡大に鋭意取り組んでいるところです。

その結果、美馬市における外国人観光客の宿泊数はここ5年で10倍以上に増加しております。今後、東京オリンピック・パラリンピックに向けまして、さらに宿泊数を伸ばしていきたいと考えておりますが、市単独では国内外の情報発信には限界があるのが現状でございます。関西広域連合で策定をしております関西観光・文化振興計画では関西文化を世界に売り込むとされております。東京オリンピック・パラリンピック、ワールドマスタースゲームズ2021関西へ向けて、関西広域連合といたしまして、美馬市など徳島に残る阿波藍をはじめとする文化や、その他、関西の各地域の伝統文化を観光資源として、その魅力を世界に向けて発信するとともに、さらなる地方へのインバウンド誘客を推進していただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

事務局 ありがとうございます。それでは、山田委員お願いします。

委員（山田啓二） 先ほど広域観光振興計画の中で少しご説明しましたように、外国人観光客数が本当に大変な数で伸びてきている。そして、これからラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピック、そしてワールドマスタースゲームズ2021関西があります。さらには今、大阪の万博誘致も進んできているということで、そうなったときに4,000万人から5,000万人という数字が本当に確実なものになってくると思いますし、その場合、関西には2,000万人時代が来ると思っております。

そのときに、正直言って、今、関西全体の受け皿が非常に不足している現状があります。もちろん大阪市内や京都市内においてもホテルの増設計画が随分出ておりますし、実際、増設しておりますけれども、それで受け切れるものではないという点で、関西全体に大きなチャンスが巡ってくることは間違いないと思います。

それからもう一点は、そうした旅行者の皆さん、特に中国や韓国、東南アジアの皆さん、最初はどちらかという成田に入って東京へ行き、富士山を見て京都から大阪へというゴールデンルートを行きますが、リピーターがどんどん増えてくると、そうではないところへ向かう観光が増えてきています。

例えば京都ですと、市長会会長の南丹市の美山に外国人が増えておりまして、今年は吉本副会長さんのところの伊根町でゴールデンウイークのときは台湾人の皆さんが来られて4割くらい伸びたという現状があります。

どのような形でそのような方が来られているかという、普通の観光宣伝やコースというよりは、ブログやSNS関係で一遍に伸びていくところがあります。したがって、私ども関西広域連合としましては、各地域の有力プロガーなどの方々を関西観光大使に任命して、関西を幅広く書いてもらう、幅広く紹介してもらうという取組を続けているところです。

ですから、「美の伝説」という広域観光周遊ルートをPRしていくと同時に、このようなプロガーやSNSの発信者をお招きする。ぜひとも美馬市からもご招待がありましたら、そうした人を派遣していくような事業をこれからどんどんやっていくことによって、関西でまだまだ秘められたと申しますか、まだまだいいものがたくさんあることを発信できるようにしていきたいと思っていますところです。

事務局　　どなたか関連してご発言ございませんか。よろしいですか。

それでは、藍住町長さんお願いします。

藍住町長（石川 智能）　　徳島県町村会の会長の石川でございます。徳島県藍住町ですけれども、私どもの町も吉野川の下流域に位置しており、かつては良質な藍の一大産地でございました。藍住町という町名の由来にもなっております。藍で栄えた町でございますので、ぜひ一つ、美馬市さんと一緒に、美馬市さんにお越しの節は藍住町にもお越しをいただいたらと思います。藍染めをやっている藍の館というのがございまして、そこへ行っていただきますと、かつての徳島県、そして藍住町の藍の伝統

的な産業であり文化でありました藍の館というのがございます、藍染めも経験をしてもらうことができますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

関西広域連合の構成団体の皆様方には、日ごろより観光振興や広域医療など、広域行政の推進に大変お世話になっております。私自身、この会議に出席させていただくのは2回目ですけれども、どのような視点から意見を述べさせていただければよいか少し悩んだところですが、今日は、未来へ向けた大きな方向性という視点から1点、意見を述べさせていただきたいと思います。

申すまでもなく我々町村を取り巻く環境としましては、防災・減災対策の推進、地方創生の推進に向けた地方税財源の確保、社会保障にかかる安定財源の確保など多くの課題が山積しております。私も全国町村会の副会長として、去る7月6日には全国927町村の厳しい現状を総務省へも要望させていただいたところですが、こうした取組とあわせ、未来へ向けて、今、できることを続けていくことも我々世代の責任であろうと考えております。

現実論としましては、少し遠いテーマかもしれませんが、四国新幹線について意見を述べさせていただきます。昨年3月に北海道から九州までが新幹線でつながり、四国は全国で唯一の新幹線空白地帯となっております。そのため高速交通ネットワークにおける交通の利便性がほかの地域と比べて著しく低いのが現状でございます。

現在、国においては新幹線などの高速交通ネットワークにより、地方と地方を結び地域活性化につなげていく地方創生回廊の実現を提唱しておりますが、その実現のためには四国新幹線の整備は必要不可欠であると考えます。

徳島県は地理的にも経済的にも古くから関西圏との結びつきが強く、特に関西国際空港は多くの徳島県民が利用する海外への玄関口です。関西圏と四国とを直結する四国新幹線の実現は、関西圏にとっても今後のインバウンド拡大に向け大きな効果が期待できると思います。こうした結びつきをより強めることのできる四国新幹線に対し、県内市町村の期待の声も非常に大きいところです。

去る7月6日には、四国4県や四国経済界などで構成する四国新幹線整備促進期成会が設立され、東京の経団連会館において四国内外の政財官の約600人が勢ぞろいをし、四国新幹線の実現に向けて心を1つに機運を高めたところであり、ぜひ関西広域連合からの力強い後押しをお願いしたいと思います。

以上でございます。

事務局 ありがとうございました。では、宮崎室長お願いします。

和歌山県知事室長（宮崎 泉） お答えさせていただきます。

四国新幹線には、まず第2国土軸としての国全体のリダンダンシーの確保という面と、それから西日本全体の大動脈の代替機能の面があります。それから関西国際空港の機能強化につながる大阪都心と関西国際空港を結ぶ高速交通アクセスの整備等に資する、こういった面があり、意義があると思います。関西の発展、日本の将来の発展の要となるプロジェクトであると思いますので、非常に効果は大きいと考えております。

このようなことから、関西広域連合では本年3月に与党整備新幹線建設推進プロジェクトチームの茂木座長や与党北陸新幹線敦賀・大阪間整備検討委員会の西田委員長に、四国新幹線をはじめとする新幹線鉄道の整備について、関西国際空港への高速アクセスの確保とあわせ要望を行うとともに、先月には国土交通省に国の予算編成に対する提案において同様の要望を行ってまいりました。引き続き国への要望を働きかけるなど、四国新幹線の実現に向けて努力をしてまいりたいと考えております。

事務局 それでは、どうぞご発言ありませんか。

忠岡町長（和田吉衛） 先ほども連合長さんからお話がありましたが、7月24日でしたか、消費者庁の新拠点となります消費者行政新未来創造オフィスが徳島に開設され、業務を開始されたとのこと。また、翌日の25日には文化庁の京都移転先が決定するなど、この場で色々と話されてこられたことが次々と実現してきているように思います。

そのような中、皆さん方もご承知だと思いますが、7月31日には百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録の国内推薦が決定しました。これで大阪初の世界文化遺産登録実現が大きく前に進むものと私は思っております。恐らく八二ワ課長さんや1,600年間ともに過ごした住民の皆様方も大喜びのことだと思います。また、竹山委員が臨む3つの挑戦の1つであります「歴史・文化を大切に進めるまちづくり」に華を添えるものだと思います。今回の決定は大阪府や私の町にとっても喜ばしいことであり、周辺地域への波及効果も大変期待するところです。

ご案内のように、関西空港の地元の9市4町で構成する泉州観光プロモーション推進協議会では、来年に地域連携DMOへと改め、誘客促進の一層の強化を図ろうと考えているところでございます。そのタイミングでの今回の決定は、私たちの活動を大きく後押しするインパクトとなると考えています。

関西ではこの4月に関西観光本部が設立され、広域観光周遊ルート「美の伝説」のプロモーションに取り組んでおられます。そのルート上にある百舌鳥・古市古墳群の国内推薦は、その対外的なアピール力、日本全体に盛り上がりがあるものと期待しているところです。今後、ぜひこのような各地域の魅力的な資源を生かして、広域観光ルートと我々のような地域連携DMOがうまく連携しながら関西全体の周遊促進、観光振興につながるよう取組を進めていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

まずは竹山委員さん、喜びをお伺いしたいのですが。

委員（竹山修身）　ありがとうございます。まず、オール関西でこれを取り上げていただき、しっかりとご支援していただいたこと、お礼申し上げます。

登録が実現すれば、大阪で初めての世界文化遺産でございます。国内推薦を得るまでに10年かかったんですよ。今まで10年間練りに練って、三度も落選して、四度目の挑戦でやっと通ったということで喜びもひとしおですけれど、喜んでばかりもいられない。2年後にはユネスコの登録をしっかりと勝ち取っていかねばならない。

イコモスが色々と細かいことも言ってきていますので、そのあたりの理論づけをしっかりとやっていきたいと思います。

また、世界遺産登録を応援する市民の会というのもありまして、もう会員は2万人を超えたのですが、日本全体としての推薦を得ましたので、やはり関西全体でもっと盛り上げていただくこと、機運醸成をお願いしたいと思います。

そして、関空で1,200万人、これだけ外国の方が来られているのに泉州は素通りされています。泉州・南河内がもっとインバウンドの経済効果を得られるようにと私たちは考えており、泉州DMOという観光戦略を担う法人の立ち上げを行っているところです。

関西大学の宮本名誉教授の試算によると、登録実現の経済効果は平成31年で堺市のみで380億円、そして大阪府全体で1,005億円と言われています。関西全体で見ればもっと大きな経済効果が起こるのではないかと思います。百舌鳥・古市古墳群を楽しんでもらい、そして美の伝説ルートを回ってもらう、そのようなルートづくりも急ぎたいと思っています。そして、忠岡町長が言われたように、これからも関空の玄関口である泉州と関西全体とを結びつけていく、そのようなことをしていきたいと思います。

そして、泉州は自転車の町ですので、ピワイチ（琵琶湖一周）とも連携していきたいし、徳島からぐるっとこの湾岸を自転車で回るということもやっていきたいと思っています。エコで健康にいい自転車を使いながら歴史や文化を楽しんでもらえるようなことを大阪府と3市、そして泉州・南河内で考えていきたいと思いますので、どうかよろしくご支援のほどお願いします。ありがとうございます。

事務局　　よろしいでしょうか。どうぞ。

多可町長（戸田善規）　　近畿府県町村会長を担っております多可町長でございます。

2点お願いと、こちらの決意となろうかと思えますけれども、参考資料7の3枚目を見せていただくと、近畿市長会が万博の関西誘致に対する決議をなされております。

今も佐々木会長と少しお話をさせていただいたのですけれども、また、この間の全国町村会の会長会でも大阪の松本会長からお話をいただいたところでございますけれども、この万博大阪誘致に対する決議というのを、それぞれの町でもやってみたい、そのように思います。

そのような働きかけですけれども、町村会でやらせていただいたらいいのか、広域連合と連名でそれぞれお願いする形をとる方がいいのか、その辺どうしたらいいのか、ご指示いただければありがたいと思います。市長会も同じご意見でございますので、これが1点でございます。

それから2点目は、平井知事から言っていただく方がいいのかもしれませんが、分権改革の関係。有識者会議に私と平井知事と2人入らせていただいておりますが、311件という提案の中で66件も関西広域連合から提案を上げていただいているのは非常にありがたいと思っております。

そんな中、最近の事例ですが、共同提案が非常に増えてきています。九州地方知事会からも提案がありますし、それから、例えば富士山周辺の自治体からも共同提案があったような気がします。そのような中で、関西にあっても広域連合からやっていますが、共通課題についての窓口になっていただいで共同提案をしていく、そのような手法がとれないかと少し思ったりします。

あわせてですけれども、いわゆる県の関係で一番提案が多いのが井戸知事、兵庫県です。市は豊田市が一番多いです。他の市は余り多くありません。また、町村は特に少ないです。そういう意味では、こちらにいらっしゃる町村会の会長さん方、ぜひ地方分権のこの提案に前向きに対応いただければありがたいと思います。

長いこと首長をやっておりますと昔のイメージがあり、分権と言われても要らない権限ばかり下りてきたという経験があります。それと、権限は下りたけれどもお金は下りてこなかった、こんな経験もあります。したがって、分権改革を内閣府が言われ、私どもも言っているのですが、なかなか下まで下りていかないのです。けれども、今

の内閣府と言いますか、分権改革室の先生方の姿勢は私どもが当初思っていたのとは全く違います。地方の側に立って国に対して物申すという姿勢をとっていただいておりますので、ぜひ分権改革の提案にご協力いただけたらありがたいと思います。

「お金のかからない住民サービスの向上策」と私は常々言っておりますけれども、ぜひ市長さん方におかれましてはご協力をお願い申し上げたいと思います。

以上、2点です。

事務局 ありがとうございます。連合長いかがですか。

広域連合長（井戸敏三） 決議について、どのような形で働きかけるかということですが、広域連合が例えば近畿市長会や町村会と一緒に働きかけた方が意味があるのでしたら、連名で働きかけることを我々も検討させていただいて結構だと思っております。ただ、権限的に言うと、誘致委員会と連名が本当は一番オーソドックス。だけど、誘致委員会から来ても議会が乗ってくれるかという話にもなりますので、その辺少し我々も検討したい。ただ、もし広域連合の名前を使った方が市長会、町村会がよければ、使っていただいても結構だと思っておりますし、我々も働きかけなければいけないと思っておりますので。

戸田町長は兵庫県町村会長ですので、兵庫県町村会長と兵庫県とでお願いをさせていただきたいとは思っているところです。兵庫県市長会と兵庫県とで各市町にお願いをしていくことはぜひやらせていただきたいと思います。色々な、多重的なお願いをしていくことが望ましいのではないかと思います。

それから、2番目、地方分権の権限移譲の関係ですが、参考資料3に提案募集にかかる連合の取組についての資料をお配りさせていただいております。関西広域連合としては各府県と共同提案をしておりますのが34件ございます。共通事項として関西広域連合で取り組むべし、各府県で取り組むべし、その共同提案をさせていただいているのが34項目あり、参考資料の別紙2に整理しておりますので、ご参照いただきたいと思います。事務局も共同提案できるものは共同提案して欲しいという姿勢ですので、

我々も積極的に臨ませていただければと思っているものです。

ただ、冒頭も少し言いましたように、このような事務の一つ一つを下ろせ、下ろさないという議論をしているのでは、結局、地方分権の大元が余り進まない、前進が見えない。ただ、一方で、こういう細かい事務を要請することによって、おっしゃられたように住民の具体的な期待に応えられる面もありますので、そういう意味で、住民が困っておられる項目については、我々としては細かい事務であってもできるだけ権限移譲を求めていくということが望ましいのではないかと、このように思っております。

特に厚労省関係の基準については、例えば保育所とか認定こども園とかの基準については、1人当たりの面積をこれ以上確保しろとか、3歳児以上の保育所であれば食堂を必ず持てとか、今どきそういう基準は設けてもらわなくてもいいのにとというのが随分ありますので、これらについては、したたかに要請を続けていきたいと思っております。それらもこの中に入れさせていただいています。戸田会長は委員としてご活躍、平井さんもそうです、お二人委員がいらっしゃいますので、またご指導もいただきながら推進を図らせていただきましたらと思っております。

事務局 では、平井委員どうぞ。

委員（平井伸治） 若干、補足を申し上げたいと思います。

戸田会長には地方分権の推進会議で大変に活躍をしていただき、先ほど豊田の話がありました、実は、豊田市長もメンバーですからたくさん提案を出しているということでもあります。

今、連合長からお話ございましたけれども、今、連合では、構成府県市も含めて共同提案を色々やろうと調整をしている実務がございます。そういうところに市町村も乗っかっていただいても結構ですし、皆さんでいい提案があれば、連合でそれを担いで横展開をしていくこともあり得ると思います。

実は、地方分権の事務局が各省庁と折衝をするわけですから、そのときにたくさんの市町村の名前が挙がっていると話がしやすくなるんですね。これ、官僚の世界のことら

しいのですが、数が多い方がいいということがどうもあるようでして、どれもこれももっともだということが多いわけです。

先ほど連合長からもお話がございましたけれども、今、従うべき基準をひとつ問題にしようと地方団体全体でも言いかけています。例えば、今、私たちが地域包括ケアをやれなどと言われているわけです。そのときに小規模多機能型居宅介護のようなものがございまして、あそこのトップの人材は、認知症のそうした仕事をした経験がある者でなければいけないとか、そういう縛りがあるんです。そんなの中山間地でするはずがない。

あるいは、放課後児童クラブのようなところでも支援員を置かなければいけない。でも、学校の区分によっては子どもの数がそんなにいないところもあったりします。たとえ1人の子どもさんだけであっても2人以上の支援員を置かなければいけない、このような従うべき基準があるのはナンセンスだと思うんです。多分、首長の皆さんの共通理解が得られるところかと思えます。そういうのをもっと出していけば、戸田町長がおっしゃるように無料でできる住民サービスの向上にもなりますので、ぜひご協力をいただければと思います。

事務局　それでは、他にご意見ございませんでしょうか。どうぞ。

伊根町長（吉本秀樹）　京都府は伊根町の吉本でございます。

京都府の伊根町と申しましても甚だ広く、南北に長いわけであります。伊根町は京都府の一番北の町であり、日本海に面している、そんな町でございます。こうやってマイクを持てば皆さんの前で自分の町が紹介できると思い、マイクを持っております。

京都府では山田知事の本当に御尽力によりまして京都縦貫が完成したわけです。27年に完成しました。27年に完成しますと、我々のその北の端も一気に交流人口が20%から30%増えました。そして、中間地点に京丹波町というところがございまして、そこ、中間ですのでドライブインがあって、道の駅ができております。300万人を超えという一大観光拠点ができしまいました。すばらしいものであります。南の端か

ら北の端まで人・物・金の流れが本当に円滑になったわけです。

そうですから、やっぱり思います、道路ですね、リニアも大事ですし、新幹線も大事ですけども、府県を越えた国道、高速道の整備というのは本当に大事であろうかと思えます。とりわけ山陰、京都北部の方も大事であろうかと思うところです。

また、インバウンドでございますが、今のこういった中で、インバウンドなんて私もどこの話なんだか、どこの世界の話だろうと思っておりましたが、最近になりますと、先ほど山田知事にも紹介していただいたんですけども、我が家の玄関先に出ますと異国の言葉が聞こえてきております。この前も誰に聞かれたのか、日曜日に家におりますと、ピンポンピンポンというので「あなた誰？」と言うと、「私、大阪の駐在ベトナム領事館の者でございます。お話を。」と言うんですね。へえ...、こんなこともあるもんだ、それもこれも道路のおかげではないか、と思っております。

また、宿泊の関係、山田知事もおっしゃったとおり本当に大変であります。これからどんどんインバウンドで増えるだろうと思っております。大きなホテルや旅館が間に合わないということで民泊が増えておりますけれども、この民泊というのは、少しいい加減なのがやはり多いです。所得も把握できないのです、効果がないです。やはり正規の旅館、ホテルというのをしっかり整えるべきではないかと思えます。そういう意味合いでいきますと、確かに正規の旅館業法にのっとった民泊などを広めていけるべきではないかと思うところでございます。

いま一つは、冒頭、連合長さんから少し道州制の話がございました。連合長さんも反対だとおっしゃっていただいたので大変安心したところでございます。全国町村会も反対をしております。理由は簡単です。これになりますと我々のような過疎地、伊根町は2,200人でございますが、こういった全国の過疎地は強制合併につながるだろうと思うわけです。全国に過疎地というのは770余りですか、指定された地域がございます。そこに住む人間は1,000万人と少しで、日本の国の人口の8.8%です。この一千何百万人がいなくなっても別にどうってことはないです。しかしながら、占める面

積の割合は58%あるわけです、国土の58%を占める過疎地であります。ここがいわゆる食料も水もエネルギーも、色んなことを生産している、癒しも提供しているわけです。この国土の58%を荒廃させては、国の荒廃につながろうかと思えます。断固反対でございます。

最後に1点、私どもは伊根の舟屋というところでして、230棟の1階が船のガレージ、2階が居室、そういうものが並んでいるわけですが、その周りに海を埋め立てた岸壁がございます、広い場所がございます。それは、いわゆる漁業者が漁労に従事する場所であります。

しかしながら、20年も30年も前に整備したところですので、現状は漁業者が少なくなっている、減ってきている、ですから使う頻度はもの凄く下がっております。休日なども空いたままになっておることがままあります。そうするとどうなるか。来ていただけるのはありがたいのですが、都市部から、休みになるとたくさん車で来られます。そしてそのウォーターフロントの目の前まで車を突っ込まれます。もう海の目の前です、手足が届きます。そこにテントを張って、魚釣りをして、そしてバーベキューをします。我が町に残るのはごみだけです。1円にもならなくてごみだけなんです。

ですから、国費を投じてでき上がった場所ではありますけれども、1つの目的はもう達したと思うんです。そういう場所はやはり柔軟に地域の裁量で扱わせて欲しい。何も地方創生だからといって金をくれという意味ではないです。そういう裁量権を我々にくれないかということをお願いしておりました。やっと山田知事のもと、うちの農林水産部も水産庁にかけ合っただけまして、5年かかりました、やっと今、駐車場として使える状況になっています。ですから他にもあるのではないかと思うんです。漁業だけでなくして農業でもそういったところがあるのではないかと。そういう柔軟な考え方をよろしくお願いしたいと思います。お願いでございます。

以上でございます。

事務局 ありがとうございます。

委員（山田啓二） 最後にお話がありました民泊の問題ですけれども、新しい法律ができて、今の民泊というのは要するに闇民泊ですから、これはしっかりと取り締まっていかなければいけない、そして表に出していき、しっかりと対応していく必要があると思います。同時に条例の制定もできるということになっておりますので、このあたり、やはり関西広域連合としても1つの考え方を取りまとめていかなければいけないと思っておりますので、そうした点、安心・安全な、日本に来て本当によかった、または京都やそうしたところに来てよかったと言われるような形で民泊の運営というものについてしっかりと管理できるようにしていきたいと思っております。

それから、様々な施設、特に補助でできた施設についてよく問題になったのは学校ですが、そうした点が問題になってきて、それをしっかりと地域で柔軟に活用できるようにすることは税金の有効な利用であり、大変大きいと思います。相変わらず抵抗は厳しいところで、時間もかかっている現状をやはり改めなければいけないと思っておりますので、これは平井知事さんや、また、戸田町長さんも含めて、できる限り補助金によってできた建物は公益的なものに使うのであれば柔軟にできるよう、転換が可能になるよう、大きな方針を打ち出してもらうように、私も全国知事会長をやっておりますから、分権を通じて頑張っていけたらと思っております。

過疎地域の問題、合併の問題などもあるのですが、とにかく交流人口を増やしていかない限り、今の人口情勢では地域の問題はなかなか解決できないと思っております。そうした点、道路の問題も含めて、できる限り都市と地方がWin-Winの関係になれるような交流の形態というものを幅広くつくり上げていかなければいけないと思っております。ここに徳島の飯泉知事がいたら、そもそも住民票が1カ所というのがおかしいのではないかと、2カ所でも3カ所でもいいのではないかとということをおっしゃるのではないかとと思っておりますけれども、まさにリアルな関係というものをどうやってつくっていくのかということを考えていかないと交流人口も増えないし、交流に伴う負担も分担できないと思っており、そうした点もこれからの課題にしていけたらと思っております。

広域連合長（井戸敏三） 1つだけ補足させていただきます。道路の整備の重要性ですが、実を言いますと兵庫県は、震災の影響もあったのでなかなか余裕がなかったということもあり、ずたずただった道路ネットワークがようやく環境整備されてきたところではあります。それで、山陰近畿自動車道についても、浜坂道路が今年度中に完了して第2浜坂に来年度からかけられる、それにあわせて豊岡の佐野というところですが、その連絡をどうしていくのか、そして豊岡と京都との連携をどうしていくのか、これがこれからの大きな課題になっております。

我々、山陰近畿自動車道整備推進議員連盟もおつくりいただいて、会長は石破先生でしたね、それで、私どもは、豊岡から京都の県境までの間はぜひ直轄代行でやって欲しいということを要請しております。京都側は一部直轄代行が始まっていますので、それをいわば延長してもらって、できるだけ早く山陰側の骨格を整備していきたい。このように今後とも努力をしてまいりますので、応援方よろしくお願い申し上げたいと存じます。

事務局 どうぞ、会長さん。

南丹市長（佐々木稔納） 京都府の南丹市でございます。

今年度の予算概要の37ページに災害時における広域医療体制の整備ということも挙げていただいておりますけれども、その中で緊急被ばく医療の検討ということですが、私どもの町、若狭の原発群からUPZ30キロ圏内となっております。そういった中で、いわゆる広域避難の先としましては、兵庫県の洲本市さん、それから南淡路市さんとなっております。今、私どもの市民の皆さん方にヨウ素剤も含めて様々なご要望をいただいているわけですが、これ一歩でも安心ができる、こういう体制の構築が重要であると考えておりますので、このような項目を挙げていただいておりますので、こういう観点に立ってもぜひともご検討を深めていただくことにより、住民の安全・安心の確保にご尽力を賜りたいとお願いいたします次第です。

もう一点ですけれども、その隣の広域救急医療体制の充実ということで、ドクター

へり、実は以前にもお礼を申し上げたのですが、私自身、平成26年8月3日、ちょうど3年前です、ドクターヘリによって命を助けていただきました。先ほど山田知事さんからもお話がございました、美山という、いわゆる過疎地で自転車による事故を起こしまして、京都の第一赤病院まで20分で送っていただきました。今、ここに座っておれるのはこのドクターヘリのおかげだと感謝しております。改めてお礼を申し上げる次第でございますし、また、このように充実をさせていただいているというのは大変感謝しております。

ただ、こういった中で、今申し上げたように過疎地における救急医療、ここにとりましてはこの課題というのは大変重要だと思っています。身をもって体験しておりますので、過疎地において命が助かるというのは、このドクターヘリの充実がやはり大変大きいのではないかと考えていますし、そういった中、もう一つお願いしておきたいのが、夜間に飛べないものかと。消防ヘリの場合、夜間に飛べるということもお聞きしております。お医者さんの体制等々大変困難な状況はあろうかと思えますけれども、こういった充実に向かって広域連合としてさらなる充実を図っていただけたらとお礼かたがたお願いを申し上げる次第です。よろしく申し上げます。

事務局 ありがとうございます。

広域連合長（井戸敏三） 広域避難について少し。去年の冬ですか、福井県の実浜の皆さんが宝塚まで広域避難をされるという広域避難訓練をしました。そういう意味では、今、佐々木市長がおっしゃったように広域避難訓練を、大々的でなくても、こんなルートでこうやって行くのかというようなことをやっておく必要があるのではないかと考えていますので、もし、南丹市がそういう広域避難訓練を行ってもいいということでしたら、我々も調整を十分させていただいて、関西広域連合としても共同避難訓練に参加させていただければと考えております。

それから、ドクターヘリについては後ほどお話しいただけたと思いますが、京都でも最近ドクターヘリの利用度が上がってまいりまして、昨年の実績ですとこの3府県

ヘリがもの凄く使われています。それだけ道路事情が悪いということも表していると思いますけれども、当初、年間の出動回数というのは350ぐらいだったのではないかと思いますのですが、今、1,400回出動しています。ですから、その中で京都も8%ぐらいのウェイトを占めるようになっていきます。そのような意味で活用していただきつつありますので、佐々木市長さんがそういうご経験をしていただいているとすれば、もっとPRの先頭に立っていただいたらありがたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、海野さんよろしく。

副委員（海野修司） 広域医療を担当する徳島県でございます。山間部のヘリにつきまして今、連合長からお話ありましたけれども、3府県ドクターヘリについては1日当たり約5回という感じでかなり飛び回っているという状況でして、予算も目いっぱい国にお願いをしているという状況でございます。そのような中でさせていただいていると。

ご指摘いただきました夜間運航ですが、ご案内のように有視界飛行ということで、安全性の確保をまず第一にということがございます。そういった中で、夜間運航について、基地病院や離着陸場における夜間照明設備の整備ですとか、あるいは近隣住民の理解、そういったところまで含めて少し議論していこうかと思っているところです。

また、徳島県においては、そういったことについては先駆けて自衛隊ヘリ、自衛隊は夜間もできるということでございまして、夜間における救急患者搬送訓練なども数回実施しているところでして、こういったところを積み重ねることによってそういったところの道が開けないか、これから検討してまいりたいと思っているところでございます。ありがとうございます。

事務局 それでは、他にご意見ございませんでしょうか。

はい、どうぞ。

千早赤阪村長（松本昌親） 大阪の千早赤阪村の松本でございます。

先ほどからインバウンドの話がございいますが、私どもの村にも金剛山という山があります。38度線の北に同じ名前の金剛山があり、これは、韓国の半島の人は一生涯に一度は上らなければならない山ということで最近、大阪の領事館へ色々とお願ひに行ったところ、どんどん韓国の方の登山客が増えてまいりまして、私どものような田舎へもインバウンドの波が来たなと思います。

ただ、時々、年に数回ですけれども、いわゆる韓国のウォンしか持っていないお客さんが来ます。私どもの息子が店をやっておりまして、「ウォンを出されてどうしよう。」、「まあ仕方ない、適当にそのときの相場で交換してあげたら」というような話をしています。ただ、私、あちこちの山登りをしまして、北欧のノルウェーなどに行きますと、10軒しかないような港町でも円を出すとすぐに現地の通貨に替えてくれるんですね。インバウンドでどんどん外国の方がおいでになるから、いわゆる通貨のエクステンジをどこでもできるようなシステムをつくらないと。インバウンド、インバウンドと言っている、結局、おいでになった方がお金を使えなくて困っているケースが結構あると思いますし、日本の円は通貨として立派なものだと思うので、オーストラリアでもどこへ行っても大抵、現地通貨に替えてくれます。やはりインバウンドをどんどん進めるにあたって、通貨のエクステンジが簡単にできるような制度というのですか、そういう組織をつくれればいいのかと。

特に私どものような村ですと、JAは撤退し金融機関が何もありません。そうなりますと、金融機関らしきものは郵便局しかございせんが、せめてそのあたりでも通貨の交換ができるようなシステムをそろそろ作り上げておかないと後々大変かと思ひます。

クレジットカードを持っておいでになりますけれども、クレジットカードの機械を入れても外国のカードでは動かないこともあります。インバウンド、インバウンドということで、まだ韓国とか中国とか、そこそこ通貨のしっかりしたところはいいのですが、また東南アジアあたりからたくさんおいでになりましたら大変だと思ひますので、その辺のこともこれからインバウンドを一生懸命やるにあたり、色々と考えてい

ただきたいと思います。

事務局 ありがとうございます。

委員（山田啓二） なかなか難しい問題でして、多分ヨーロッパのようなところは結構色々通貨が入り乱れてきた経験があるので、両替について民間も含めて、東南アジアもそうだと思うのですが、非常に発達をしていると。日本はその点で遅れてきただけに、交換する場は銀行しかない、一般の両替を専門とするようなチェーンがないということで大変難しい話があるのだらうと思います。ホテルでもあればホテルで両替をするという話もあるのでしょうか、そのあたりはこれからの大きな課題だと思います。

それから、最近は電子マネーが非常に一般的になってきている。私も外国にはプリペイドの電子マネーを持って行きます。そうすると、普通の銀行のATMですぐ替えることができる。そうしたところだと、多分、ATMはあると思います。最近コンビニでもATMを入れていきますから。そうした点をどのように強化するかについては、関西観光本部ができましたから、もう少し融通が効かないかどうかを民間の方とも検討させていただきたいと思います。商店街も含めて、中国は銀聯カードやプリペイドカードもありますので、そうしたものの流通システムをこれから東京オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズ2021関西に向けてどれだけ整備できるかについては課題とさせていただきたいと思います。

事務局 それでは他にご意見ございませんでしょうか。もうお一人、お二人ぐらいは時間を用意していますが、いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

南丹市長（佐々木稔納） 今の山田知事さんの関連ですけれども、先ほどおっしゃっていただきましたように、私どもの方に台湾を中心にインバウンドの方が来られるんですけれども、その人たちの要望というのが、まずWi-Fiをたくさん整備して欲しい。もう一つは、クレジットカードと交通カードがどこでも使えるように何と

かしてもらえないかというご意見があります。今、知事さんおっしゃっていただきました、作っていただいた組織の中でもこのあたりに力を入れていただき、民間の力も活用いただけたらと思います。よろしくお願いします。

委員（山田啓二） Wi-Fiに関しては、ようやくKANSAI Free Wi-Fi(official)で統一化されてきましたので、ここを拓げていくという形ができると思いますので、また市町村にもご協力をお願いしたいと思います。

それから、ICカードについては、KANSAI ONE PASSを作ってもICカードが使えないと全く何の意味もありませんので、特に京都の、兵庫もですかね、北の方では使えないし、鳥取もまだ行けないなど色々課題がありますので、そうした点の改善をこれから関西観光本部でやっていきたいと思います。クレジットの方も、コンビニあたりでも、かなりATMはできるようになってきましたので、そのあたりの両替機能がうまくできるような方策を考えていけたらと思います。

事務局 よろしいでしょうか。他にご意見ございませんか。

それでは、少し時間がありますけれども、このあたりで本日の意見交換会の総括を兼ねた閉会のご挨拶をお願いします。

広域連合長（井戸敏三） 大変色々な分野での課題のご指摘を賜りました。広域連合としましても、ただいまのご意見等を踏まえながら、広域連合が直にできないことについては、例えば、共通課題として受けとめて既に行われているような事例を整理して提供するとか、EUのようにガイドラインを広域連合が取りまとめて、ガイドラインを提供していくというような方向が広域連合としての役割なのではないかと思ったりしております。これらも広域行政のあり方検討会の中で具体の仕事の進め方の1つの検討項目として考えていきたいと思っているものです。

また、やはり広域インフラについてのご指摘をたくさんいただきました。関東に比べて関西、広域インフラ、特に道路ネットワークはぶつ切りになっています。

それから、鉄道につきましても電化がきちんと進んでおりません。大阪の中でも、

大阪市の地下鉄が真ん中にあるわけですけれども、相互乗り入れができない。これは、電気のとり方が地下鉄と民間の電車とJRを含めて違っていただきますので、物理的な調整をきちっとしていかないといけない、そのような面もあり、相互乗り入れも進んでいない、こういう状況をどうやって打破していくか。

それから、お客さんの方から言いますと、ICOCAなどのICカードが十分に使えない駅がいっぱい残ってしまっているという状況です。兵庫でも姫路から岡山側にかけては使えませんし、それから但馬では使えない、西播磨も一部しか使えない、淡路は鉄道がありませんけれども、民間バスは使えますけれどもタクシーはだめだと、こんな状況ですので、これらもやはり広い意味でのインバウンド対策、観光の基盤整備だろうと思っています。

そのような意味で、ぜひ市長会、町村会の皆様方で住民サービスや住民との関係でこんな問題点が色々あるということをご案内させていただいて、我々とともに解決策を図っていくというような基本スタンスで臨ませていただければと思っておりますので、今後ともよろしくご指導をお願い申し上げたいと思います。

今日、色んな分野においてご指摘やご指導をいただいたことに最後に感謝を申し上げますとともに、広域連合としましては、7つの広域事務についてはしっかりとした取組を積み重ねてきたと思っておりますが、今後さらにどんな展開をしていくのかが問われつつあるということではないか、そのために広域行政のあり方研究会も開くわけですけれども、我々自身も模索をしている分野でもございますので、こういう点だったら期待するというような意味でのご示唆などがあるようでしたら、ぜひお伺いさせていただければありがたいと思っております。

最後になりましたけれども、本当にお忙しい中、このような機会をおつくりいただきましたことに感謝を申し上げます、お礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

事務局　それでは、以上をもちまして本日の意見交換会を終了させていただきます

す。ありがとうございました。

閉会 午後 4 時 5 3 分